

今月号は、3月、4月号に続いて、人口減少問題を取り上げます。新潟県や阿賀野市の将来を考えるときに、人口減少社会への問題意識をどう共有するか、また、何をなすべきかの観点から、前向きな思考で取り上げてみたいと思っています。

新潟県議会議員 帆苅 謙治

未知の時代を生きる子供たちのために!

◆◆◆ 20年後を見据え、いま何をすべきか! ◆◆◆

第三弾

20年後の阿賀野市 の姿(将来像)

阿賀野市の人団は、2020年1月1日現在41,900人ですが、2040年には30,772人と予想されています。

3月号で2040年の日本の姿をイメージしましたが、20年後の阿賀野市の姿はどうなっているのでしょうか。

何も手を打たなければ、国と地方自治体の違いはあっても、市民にとって厳しい事態を想定しなければなりません。



まだ、2040年までに
20年もあるでは遅い?

まだ、20年あるといつても、この先5年程度で20年後の阿賀野市の姿(以下「将来像」という)を考えなければならぬ程度で阿賀野市の未来を担う

子供たちにどんな将来像を残してあげられるでしょうか。そして、私たちが問題意識を共有し、市民一人ひとりが自覚することが必要かと思っています。そして、みんなで知恵を絞り創造力を発揮することができるよう、市民の力を大結集し、阿賀野市だけに効く人口増に結びつく特効薬(施策等)を開発しなければならないと考えています。

人口減少社会への対応として、この問題を悲観的に考えるか、それともこの社会を受け入れて前向きに考えるかという選択肢があります。

仮に、人口減少社会を受け入れたからといって、何も手を打たないということではなく、人口減少の歯止めとなる施策などを提案しなければなりません。

◆地域の魅力を活かそう

平成の大合併で南部4ヶ町村が合併し、阿賀野市の誕生から15年余。合併による職員の再配置や公共施設の統廃合などで行政の効率化が進み、行政経費の削減効果は評価されます。

しかし、旧4ヶ町村の魅力

に効果的に引き継がれている程度で阿賀野市の未来を担う

ことによって、市に新たなブランドが生まれるものと考えています。この魅力を最大限に活かすことによって、市に新たなブランドが生まれるものと考えています。

これまで、3回にわたり人口減少問題を取り上げましたが、この問題を考えていると、出口の見えないトンネルの中にいるような想いをさせられます。だからといって、何も考へないで流れるままにもできません。

過去の常識にとらわれるとではない!

このまま人口減少が急進し、

新型ウイルス感染症による経済への影響を考えると、国や地方政府の税収は落ち込み、行政サービスを十分に提供できないことが懸念されます。

その時は、これまで経験されたことのない、市民の皆さまへ理解と協力を求めることがあります。

すでに、人口減少が進んだ地域では、住民組織が行政機能の一部を肩代わりする事例もあります。

人口減少や新型ウイルス感染症の問題は、あらゆる分野での改革を迫り、過去の常識にとらわれず、危機意識を共有し対処しなければならないと思っています。

自治体は、市民の暮らしを支える基盤であり、迫りくる

新しい時代を背負う 子供たちへ!

これまで、3回にわたり人口減少問題を取り上げましたが、この問題を考えていると、出口の見えないトンネルの中にいるような想いをさせられます。

だからといって、何も考へないで流れるままにもできません。



ぜひとも、市民の皆さまと英知を結集し、新しい時代を背負う子供たちから、このまちに生まれて良かったと思われるように、夢と希望のある将来像をプレゼントしようではありませんか。市民の皆さまのご理解とご協力をお願いし、私は、その先頭に立つてがんばります。

[出所：国立社会保障・人口問題研究所・総務省自治体戦略2040構想研究会第一次報告・第二次報告・総務省ホームページ]

全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

阿賀野市に
企業誘致を!!

令和2年6月定例会産業経
済委員会での質問(6月23日)

新型ウイルスの世界的感染
拡大に伴い、生産拠点を海外
に置く企業では物品の国内調
達に支障をきたしています。
この事態を受け、政府は国内
内で生産拠点を整備する企
業に対する補助金制度を創
設しました。



阿賀野市安田地区・新潟県東部産業団地

私は、新潟県として県内に
生産拠点を整備する企業へ政
府の補助金に上乗せする独自
の支援事業を講ずるべきと提
案しました。

その結果、2億円余が補正
予算に盛り込まれることにな
りました。

市民の声

阿賀野市活性について思うこと

阿賀野市勝屋 榎本 英樹

名古屋市から夫婦で阿賀野
市に転入して四年が過ぎまし
た。自然豊で温泉があり、こ
んなに魅力的ななぜか子
供達、若い人が少ない。なかな
か活気が生まれません。市民
の皆様も同じ思いでしょうか。

どうやつたら、活気ある阿
賀野市になるんでしょう。日
頃感じていることを二点にま
とめてみました。

なぜ、若い人が 定住しないのか

『理由一』市内に職場の 選択肢が少ない

統計資料をみて感じるこ
とですが、製造業が多い自治
体は若い人が多い。製造業は
製造、加工、梱包、流通、消費
と各段階それぞれ付加価
値を生みます。生産額が多く
なれば給料に反映するため、
給料も高くなります。

では、阿賀野市はどうか。
製造業は逆に減少傾向にあ
ります。ですから他圏域から
の企業誘致が重要となつてき

ますが、だからといつてどん
な企業でもいいというわけ
ではありません。市内多くの
企業と連携できる業者であ
ります。産業フェアにお誘い
するのも手です。民間主導で
誘致が進み、職種の選択の幅
が広がれば、市外に職を求め
る必要がなくなります。

『理由二』水原駅前のロータ リー化、道路整備の重要性

阿賀野市の玄関口はどうか
と聞かれたら、皆さん何と答
えますか。私は即座に答えら
れません。新潟市であれば、
新潟駅と答えるでしょう。駅
前がロータリー化され、道路
整備が進んでいます。駅を中
心に商業施設が軒を連ねて
います。この点、阿賀野市では
どうでしょう。

『理由三』子供達の教育を地 域社会全体で請け負う覚悟で

地域社会全体で守り育て
る取り組みが益々重要にな
る。勉強も学校だけが責任を
負うのではなく、地域社会が
一緒になつて子どもの基礎学
力や、将来社会で役立つコ
ミュニケーション能力を育て
られたらしい。企業で活躍で
きる人材が育ちます。進学希
望者は、市民参加による給付
型奨学金の仕組みがあつたら
どうでしょう。その子は必ず

く、大昔のような点在する集
落が少し近代化するくらい
ではないですか。それで若者
に未来を託せるんでしょうか。
背景には、田舎の小都市を
コンパクトシティに誘導する
国の政策があると思います
が、阿賀野市として、県や國
に豊かなビジョンを示すこと
はできないものでしょうか。

その第一歩が阿賀野市の玄
関口をつくること。水原駅を
中心とした道路整備だと私
は思います。

阿賀野市は新潟市にも近
い。交通の便もいいとなれば、
今こそ、東京を含む大都市圏
の企業に対し、BCP(事業繼
続計画)を参考してもらい、
阿賀野市への誘致を働きかけ
る好機かもしれません。それ
は、県、市双方の利益にもつな
がります。

新型ウイルス社会の 今だからこそ

という気になるのではないで
しょうか。

阿賀野市が
元気になる、提案・
意見をお寄せ下さい。

特定の思想・主義の主張や、他
者への非難や批判ではなく、あ
くまでも建設的な内容に限り
ます。文字数は400字以内です。

ほかりけんじ事務所

〒959-2221 阿賀野市保田 737-2
TEL:68-5441 FAX:68-5515
<http://www.hokaken.jp/>

◎「ほかりけんじ・県政便り」は、新聞折り込みでお届けします。